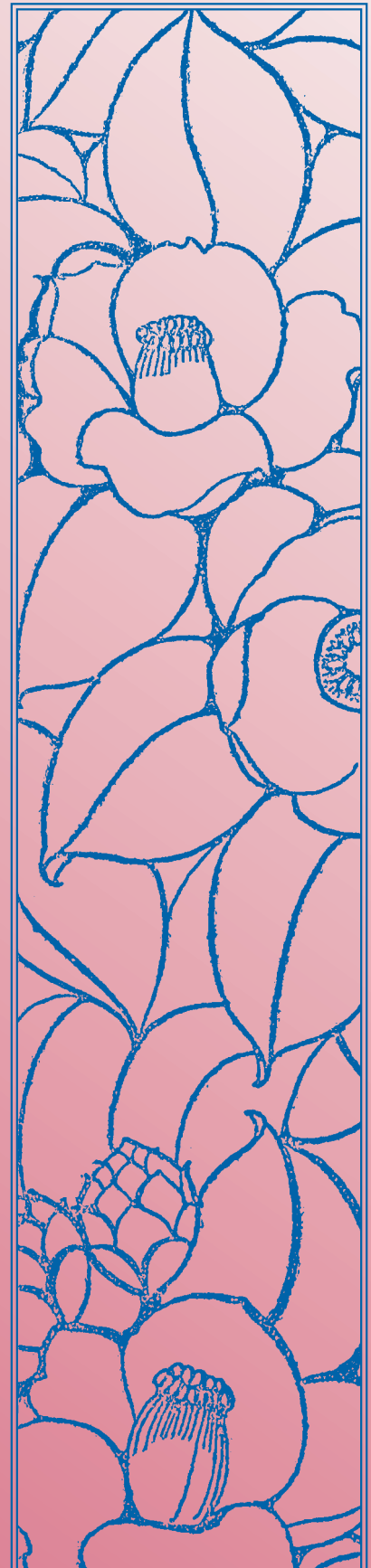




豊田市
郷土資料館
だより
No.56

Toyota City Museum
Of
Local History



目次

- ・企画展準備レポート 郷土の偉人「須藤しげる」展 ————— 2
- ・新収集資料紹介 「紙本著色 鳥山牛助画像」複製軸 ————— 3
- ・近代化遺産紹介 「寿町の達磨窯」 ————— 4
- ・地域資料館紹介 ————— 5
- ・平成17年度郷土資料館事業報告 ————— 6
- ・平成17年度埋蔵文化財調査の概要 ————— 7
- ・文化財シリーズ56・資料館 NEWS ————— 8

郷土の偉人 「須藤しげる」展



須藤しげるという画家を知っていますか？ 須藤しげるは、大正から昭和前期にかけて活躍した抒情画の画家でした。抒情画というと聞きなれませんが、抒情画の原型をつくった画家といわれるのは、竹久夢二です。竹久夢二といえば、やわらかな筆致の優しい少女の絵を誰しもが思い浮かべる事でしょう。抒情画は、こうした絵に画家の感情的な表現を加えた絵といえます。作者の感情を詩にあらわした抒情詩という文芸がありますが、抒情画は画家の感情を絵に表現したものの、絵を見ることで画家と同じ感情にあふれてくる絵をいいます。須藤しげる自身の説明では「抒情画ではその画家の眼がもっとはっきりと、その画家自身の人生観、自然観を画の内に盛りこんで、その感情を画によって伝えようとする」絵と説明しています。



『花物語』須藤しげる挿絵

須藤しげるは、明治31年(1898)8月17日拳母町に生まれました。本名は須藤源重げんじゅう、絵のサインでは「須藤重」とされるものもあります。商家の次男であったため、上京して画家を志しました。初めは岸田劉生に油絵を見てもらい、後には日本画に転じて中村岳陵に学んだといわれています。しかし画家として生活する事が困難であったことは十分想像できます。大正5年(1916)『少女画報』の「花物語」(吉屋信子作)の挿絵を描いたのをはじめとして、「少年倶楽部」の「忠実な少年」「トナイザの鎖」(尾崎喜八作)、「少女倶楽部」の「君よ知るや南の国」(加藤武雄作)など雑誌に掲載された小説の挿絵を多く描きました。少年雑誌にも挿絵を描いていますが、主流は少女雑誌で、「少女倶楽部」「令女界」「少女

の友」「少女世界」などに挿絵・口絵を描いています。また雑誌に掲載された小説が、単行本として刊行される際には本の装丁デザインも行っています。昭和初期には、子ども向け雑誌のみならず、「婦人倶楽部」や「週刊朝日」といった大人向け雑誌にも描くようになり、挿絵画家としての人気をうかがうことができます。しかし絵を見ると単なる挿絵という以上に画家の創意と感性が感じられ、しげる自身、挿絵画家というより、あくまで抒情画家としての立場を貫こうとしているように感じられます。



『花物語』吉屋信子著 須藤しげる挿絵・装丁

「抒情画と挿絵」(『須藤しげる抒情画集』国書刊行会)の中でしげる自身、「挿絵はその小説なり物語の内容を説明する絵」であって「明けても暮れても間に合わすために描く絵」であるため、「その絵の中にどれほどの美術的欲求が果たされ得るのか」、「画人としての向上欲をどこまで希み得るのか」といった葛藤の上で作品を描いていると書き記しています。

画家としてのしげるの作品は、豊田市が所蔵している11点の油絵を見てみると、しっかりとした筆致の力強いとさえ言える油絵です。絵は肖像画4点、風景画4点、静物画3点があります。多くの挿絵画とは対照的な印象さえ受ける絵です。

現在、知られる作品のほとんどは挿絵画ですが、その作品は抒情画として十分に評価され得るものであると思われます。

しげるは昭和21年(1946)2月3日、48歳という若さで亡くなりました。

(伊藤智子)

平成18年7月29日(土)～9月3日(日)に当館にて展覧会を開催する予定です。

平成17年度に豊田市郷土資料館が新たに購入した資料から複製の掛軸を紹介します。



「紙本著色 鳥山牛助画像」複製

この画像は、^{とりやまうしのすけきよもと}鳥山牛助精元という人物です。江戸時代、寛文4年(1664)~天和元年(1681)、現在の豊田市駅を中心とする旧拳母(当時は衣と表記しました)地区は幕府の支配地でした。この時の幕府の代官が鳥山牛助です。

鳥山家は慶長6年(1601)に代官となった鳥山牛助精^{きよもと}俊はじめ、以後牛助精^{きよあきら}明、牛助精^{きよもと}元、平太夫精^{きよなが}永と代々代官職をつとめました。衣が幕府領になった寛文4年(1664)当初の代官は鳥山牛助精明でしたが、寛文6年10月に没し、子の精元がその跡を継ぎました。

幕府の三河代官所は赤坂(音羽町)にありましたが、牛助精元は、旧領主・三宅氏の陣屋跡に倉7棟を建てて手代を常住させたと伝えられています。また精明の代には四郷村に代官屋敷があったと言われています。

鳥山代官の業績として伝えられているものを紹介します。

- ・衣の町の整備・・・道幅三間半(約6.3m)の街道を作り、道沿いに町並みを整備、町の入り口には木戸を六ヶ所作って町内の治安維持につとめました。
- ・養蚕の奨励・・・矢作川堤防上に桑樹を植えて、養蚕

飼育を農作の副業として奨励しました。

- ・新堤を設ける・・・矢作川の出水時に遊水池を設ける事で町の洪水を防ぐように^{かねしやく}曲尺に似た形の堤防をつくりました。これは^{かねのてつみ}曲尺手堤と呼ばれました。
- ・衣村根川六ヶ村の灌漑・・・上庄司池・下庄司池の治水を行い、衣村・根川六ヶ村(金谷・下市場・下林・長興寺・今・山室)の田畑の灌漑に便を図りました。治水事業や領民救済の事業を行ったために代官は人々から慕われ肖像画が遺されたのでしょうか。現在残る肖像はいずれも鳥山牛助精元のもので、特にこの写真の複製画の原本は、市内金谷町の農事組合が所蔵しています。鳥山代官の行った灌漑事業で、多大な恩恵を受けた金谷村の農民たちは、肖像画を作り、毎年この絵を掲げて供養し、子孫にその業績を語り継いでいったのでしょうか。供養は年に一度、現在も続けられています。

絵を見てみましょう。恰幅の良い体格、正座をして扇子を立てて持ち、まっすぐ前を見据えた正装で描かれています。着物は金彩で細かな模様が施され、扇子部分にも金彩があります。落ち着いた威厳のある姿から名代官の面影が伝わってきます。



「木造 鳥山牛助座像」

豊田市内には鳥山牛助の肖像を伝える資料がもう一点あります。市指定文化財の「木造鳥山牛助座像」です。幡豆郡吉良より、浄久寺(市内喜多町)に寄進された木像です。こちらは平服姿ですが、やはり恰幅がよく太い眉に大きな眼でまっすぐ前を見据えた姿で作られています。大正14年(1925)に発行された『七州城沿革小史』には、毎年11月27日の忌日には必ず供養が行われていたと記されています。

鳥山牛助画像は、代官の風貌を現代に伝えるだけでなく、代官を慕う領民の思いと歴史を伝える資料です。

(伊藤智子)

だるま がま 寿町の達磨窯

達磨窯とは瓦を焼成するための窯のことで、その名称は外観が禅僧の達磨大師が座ったような形であることに由来します。達磨窯の主な構造は、中央部分の瓦を焼く部屋である焼成室と、燃焼室の左右につけられた焚口を備えた燃焼室から成っています。瓦の出し入れは、焼成室の横腹にあたる戸口から行われました。

近世初頭には既に定型化していたといわれる達磨窯は、長い間瓦生産の主力を担ってきました。豊田市域でも、平成6年(1994)頃までは達磨窯による瓦生産が行われていました。最盛期の昭和30年頃には30ヶ所を超える瓦製造所が市域に所在しており、特に緑ヶ丘から寿町を中心とした挙母地区南部一帯には瓦製造所が集中していました。今後の検証が必要ですがこの地区に瓦製造所が集中した理由としては、原料となる良質な粘土や燃料となる薪を得やすかったことや、鉄道の開通により重量がある製品の出荷に有利だったことが考えられます。



寿町の達磨窯(平成16年撮影)

寿町の達磨窯は、瓦製造所「村仙」(のちに「村瀬製瓦所」に名称変更)の窯として大正10年(1921)頃に築かれ、昭和56年(1981)まで使用されました。築造以後、2年に1度の割合で補修をしたものの、大規模な改築はしていません。築造当時の姿を保っているとすると、遅くとも数年で作り直す一般的な達磨窯に比べて、この達磨窯は非常に長命な窯と言えます。現存する達磨窯のうち築造年代が大正時代にさかのぼる窯は全国的に

も珍しく、窯業史上の観点からも大変貴重な存在です。

操業停止以来風雨に晒されて表面が崩れていますが、現在確認できる大きさは、最大長6.1m、幅3.3m、高さ2.1mです。瓦が詰められた状態なので正確な計測はできませんでしたが、焼成室の大きさは床が2～2.4m四方、高さが最大1.9mと推定されます。この窯によって一度に焼成できる瓦の枚数は、平瓦だけを焼く場合は1,000枚・その他の形がある瓦を焼く場合には800枚程でした。この窯には燃焼室の床にロストルがあり、焚口とは別に通風口が設けられていることから、石炭を燃料として設計されたようですが、燃料は薪を使用していました。瓦の焼成は次の手順のように行われていました。

- 1日目：素地を詰めた後、昼(12時頃)に火入れ
- 2日目：午前2時頃から本焚き、昼(12時頃)に瓦をいぶすために松の木を投入し、窯を閉じて密閉
- 3日目：朝方(午前4時頃)に燃焼室に水をかけて火を止め、窯から炭を出す
- 4日目：朝方(午前4時頃)に窯から瓦を出す

瓦の生産には、原料となる粘土の採取から、瓦の形の成形、道具づくりや窯の補修、製品の運搬など、多くの人に関わっていました。寿町の達磨窯は、築造年代の古さや窯業技術だけではなく、地域の産業の歴史と人々の生活を伝える遺産として地域にとっても重要な財産です。

(天野博之)

参考文献：愛知県教育委員会 2005年 『愛知の近代化遺産』

藤原学 2001年 『達磨窯の研究』

- ・築造年代等、寿町の達磨窯に関する情報については、窯の所有者であり、実際にこの窯を使っていた村瀬一二男氏から今回改めて聞き取りした。
- ・窯の大きさは平成16年度に行った測量調査結果を基にした。

発見館において下記の企画展を開催中です。是非ご覧ください。

名称：「市域の瓦づくり-いぶしの輝き-」

期間：平成18年4月28日(土)～7月9日(日)

場所：豊田市近代の産業とくらし発見館

所在地：豊田市喜多町4丁目45番地

問合せ：電話 0565 33-0301

地域資料館紹介

6町村との合併により、地域資料館が6か所ふえました。それらを、「郷土資料館だより」56～59号で紹介します。

[豊田市足助資料館]

大正12年(1923)に愛知県蚕業取締所足助支所として建築された建物を使用して、昭和62年(1987)10月に開館した資料館です。

鉄筋コンクリート造りの壁に、木造入母屋風瓦葺屋根の建物は、大正10年(1921)建築の愛知県蚕業取締所第九支所(現在、近代の産業とくらし発見館)と同じ建築様式です。足助には古い町並みがありますが、町並みから少し離れてはいるものの、西洋風建築の趣きが漂う貴重な建物といえます。

規模の小さな資料館のため、縄文時代、城跡公園足助城、三河土人形、三河漆の4点にスポットをあてて展示しています。特に、県内で復元されている最古(約10,000年前)の土器である、北貝戸遺跡(桑田和町)の土器、「ヴィーナス」あるいは「小錦」の異名をとる今朝平遺跡(足助町)の土偶など、縄文時代の土器や石器が数多くあります。

また、足助地域に関する本や資料も収蔵していますので、事前にお申し出いただければ、閲覧できます。

- 住 所 豊田市足助町梶平25-1
(さなげ足助バス「学校下」下車、徒歩5分)
TEL 0565-62-0387
- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休 館 日 毎週木曜日(祝日、11月は開館)
12月28日～1月4日
- 入 館 料 大人200円、高校生100円
(20名以上は1割引)



[豊田市足助中馬館]

大正元年(1912)11月に旧稲橋銀行足助支店社屋として建築された建物を使用して、昭和57年(1982)6月に開館した資料館です。

入り口を入ると、客溜り、カウンター、営業室があり、これらの上部には木造のギャラリーが廻っています。このギャラリーはあまり実用的ではなく、どちらかという装飾性が強いものです。営業室の奥の金庫室は、昭和29年(1954)に増築されています。

木造2階建塗籠造、棧瓦葺の建物は、明治時代から大正時代にかけての地方銀行の姿をよく残していて、金庫室を含めて愛知県指定文化財(建造物)に指定されています。

町並みの中にある施設で、商業の町として栄えてきた足助の町を紹介するために、商業、金融、交通などの資料が展示してあります。すっかり初春の風物詩となった中馬のおひなさんには、拠点会場として10数組のおひなさまが飾られます。

- 住 所 豊田市足助町田町11
(さなげ足助バス「学校下」下車、徒歩5分)
TEL 0565 62-0878
- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休 館 日 毎週木、金曜日(祝日、11月は開館)
12月28日～1月4日
- 入 館 料 無 料



平成17年度郷土資料館事業報告

1 文化財保護審議会

委員委嘱20名(任期6月1日から2年間 公募2名)
審議会開催5回 合併町村地区指定文化財視察(足助、稲武、旭、小原地区)

2 埋蔵文化財(P7と一部重複)

堂外戸遺跡発掘調査 5,600m²(弥生・古墳)
拳母(桜)城跡発掘調査 1,450m²(近世)
今町遺跡 64m²(中近世)
神明遺跡 34m²(中世)
寺部城関連遺跡 98m²(古墳・中近世)
範囲確認 7ヶ所
包蔵地・有無照会 332件
出土品整理(寺部城、敷田・切山古窯址群、妙蓮・十五夜・高根越・七曲古窯、秋葉・丸根遺跡)
報告書刊行(寺部城、敷田・切山古窯址群)

3 登録文化財

浄照寺(若林西町)本堂・庫裏・書院

4 伝統的郷土芸能保存団体の認定

飯野祇園保存会
竹村チャラボコ保存会

5 文化財保存維持・修理等補助事業

有形民俗文化財修理 3団体
有形民俗文化財維持(山車)12団体
無形民俗文化財維持 33団体
伝統的郷土芸能維持 16団体
伝統的郷土芸能修理 3団体
郷土の偉人顕彰活動 5団体
建造物維持管理 1団体
山車蔵建設 2団体

6 史跡整備

丸根城址公園排水工事
史跡標柱設置(岩長遺跡)
百々貯木場跡整備計画検討会議

7 展示

特別展「鈴木正三 一人の心と心」
6月24日～8月7日 2,186人
企画展「養蚕がさかんだった頃」
11月1日～1月5日 1,693人
企画展「ひな人形展」
1月28日～3月12日 3,270人



ひな人形展

8 資料調査

史料叢書調査原稿作成(村上家文書目録)
昭和史資料調査
豊田市史調査、新修市史検討会
とよたの祭事調査映像記録(猿投の棒の手)
矢作川河床埋没林調査(岡崎市と合同調査)

9 資料購入・修理

溜塗長棗(又日庵好・八代宗哲作)
鳥山牛助画像(複製)
板倉塞馬俳諧短冊
『宇都宮氏経歴談』
「麓草分」「破吉利支丹」(鈴木正三著 木版本)
「築平村検地帳」(天正18年)
長篠・長久手合戦図屏風修理(市指定)

10 施設整備

近代の産業とくらし発見館開館(11月1日)
猿投棒の手ふれあい広場空調設備改修工事
民俗資料館(移築民家)屋根修繕

11 その他

愛知万博山車百両総揃え事業支援
鈴木正三没後350年記念事業支援(記念式典、シンポジウム、合唱組曲鈴木正三物語発表、交流会)
始祖松平御参府お帰り道中事業支援(江戸 松平を12日間で江戸参府帰路の道中再現)
歴史体験講座開催(鎧・姫衣装の試着、勾玉製作、土偶づくり、花もち作り、たこ作り、おこしもの作り)
博物館館務実習生受入れ(9月)
郷土資料館収蔵庫くん蒸
文化財防火訓練(隣松寺、如意寺、長慶寺、浄照寺、平勝寺、七州城)

平成17年度埋蔵文化財調査の概要

○有無の照会

開発に伴って埋蔵文化財の有無が文化財課へ照会がされます。おもに住宅建設や宅地造成、事業用建物の建設、開発の事前調査、不動産鑑定といった理由から埋蔵文化財の有無の照会が332件ありました。

このうち遺跡(埋蔵文化財包蔵地)に該当したものが159件あり、地区別の内訳は表1のようになっています。開発件数のかたよりがほぼ反映されています。

地区	猿投	拳母	高橋	松平	高岡	上郷
件数	31	42	32	4	4	12
地区	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武
件数	12	1	8	3	2	8

表 1

○届出

遺跡内での開発は文化財保護法により届出が必要となっており、その届出が民間開発事業で44件、公共事業で5件ありました。

	慎重 工事	工事 立会	試掘	本調査	その他	計
民間	7	23	3	3	8	44
公共	1	4				5

表 2

地区	件数	主な遺跡
猿投	6	伊保遺跡、亀首遺跡、上原遺跡
拳母	14	桜城跡、梅坪遺跡、瑞穂遺跡、今町遺跡
高橋	13	高橋遺跡、寺部城関連遺跡
松平	1	河原田遺跡
高岡	1	東唐池5・6号窯
上郷	4	上野城跡
藤岡	3	向イ原遺跡
小原	0	
足助	1	田中遺跡
下山	1	大桑城跡
旭	0	
稲武	0	
計	44	

表 3

地区別では表3のようになっています。拳母地区・高橋地区・猿投地区に偏っています。遺跡別では拳母

地区の梅坪遺跡・瑞穂遺跡、高橋地区の高橋遺跡・寺部城関連遺跡、猿投地区の伊保遺跡での届出が多く、かなり偏っていることがわかります。また、これらの内訳は民間開発のうち半数が個人住宅の建設・建替えによるもので、ほかに共同住宅の建設、事業系建物の建設、鉱物採取、通信塔の建設などがありました。公共事業では道路工事、公園整備などでした。

これらの調査のうち桜城の本調査、神明遺跡・今町遺跡・寺部城関連遺跡については「豊田市郷土資料館だより」55号で紹介しています。ここでは他の主だった調査について簡単に紹介します。

梅坪遺跡(範囲確認) 32m² H17.4

発掘調査区域から西へ200mほど離れた地点での範囲確認調査。遺構なし。

堂外戸遺跡(試掘調査) 15m² H17.8

本調査を実施している区域の北東にあたる区画での範囲確認調査。盛り土が厚く、遺物包含層は現地表から120cmほど下にあることがわかり、遺跡範囲がこれまで考えてきたよりも若干広がることが考えられます。

伊保遺跡(範囲確認) 21m² H17.8

伊保遺跡の縁辺部での試掘・範囲確認調査。

金谷城(試掘調査) 20.4m² H18.2

金谷城の縄張り推定範囲端部での携帯電話用の通信塔建設に伴う試掘調査。堀の一部を確認することができましたが、該当地は1.5mほど埋め立てた土地で、残存状態はよくありませんでした。

上原遺跡(範囲確認・試掘) 40m² H18.3

個人住宅の建替えと市道拡幅等に伴う試掘・範囲確認調査。明瞭な遺構はみつきませんでした。

その他の調査として測量調査を1件実施しました。

西ノ宮遺跡(測量調査) H18.3

猿投神社西ノ宮参道周辺に位置する中世の遺跡。参道工事や風雨による自然崩落の危険があることと、東海自然歩道もあり、猿投山登山者もよく通行しているため、現況の維持が困難なことから測量調査を行いました。

(杉浦 裕幸)

文化財シリーズ



ともえがわ おうけつ
巴川の甌穴
市指定文化財

甌穴は長い間に水の浸食作用によってつくられるかめ状の穴です。河床の岩盤に割れ目やくぼみがあると川の水が入り込み、礫や砂を含んで渦まいて岩盤を掘り下げます。こうしてできた穴が甌穴と呼ばれます。河床に岩盤が露出し、川の流れが急なところでしか見られません。

王滝町周辺の巴川河床には、約200mにわたって大小150個あまりの甌穴があります。なかには1mを超すものや穴が広がりすぎて崩れてしまったものも多く見かけますが、これは日々甌穴が成長していることを意味します。樹木や生物といった天然物と同様に、甌穴も自然がつくりあげたものです。巴川の甌穴を昭和53年に文化財に指定し、その景観を保護することとしました。

甌穴は河川以外に海でも見つけることができます。海辺の甌穴は波蝕甌穴と呼ばれていますが、どちらも水の力と長い年月がつくり出したものです。

これからの季節、水辺に出かける機会も増えてくることと思います。少し目を凝らせば小さな自然の不思議に会い、「継続は力なり」という言葉の意味を体感できるのではないのでしょうか。



資料館NEWS

長篠・長久手合戦図屏風を特別公開

このほど修復が完成した市指定文化財「長篠・長久手合戦図屏風」を4月29日から5月14日まで特別公開しました。この屏風は市内在住・浦野正二氏から平成14年10月に寄贈されたもので、寺部渡辺家ゆかりの品です。犬山成瀬家の屏風を写したのですが、成瀬家の図に寺部渡辺家の初代・守綱公が活躍する場面を書き加え、祖先の武功をたたえ徳川家康と共に戦った家柄であることを強調する意味合いをもった屏風です。



こどもの日イベントを実施

5月5日のこどもの日に「こどもの日によろいをきてみよう!」を開催し、約300名が参加しました。これは、鎌倉時代と戦国時代の鎧(レプリカ)と姫の衣装を試着できるというものです。

鎧かぶとを身にまとった子どもたちは武士の気分を味わっていました。



利用案内

開館時間 9:00~17:00

休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)、年末年始

入場料 無料(特別展開催中は有料)

交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分

名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分

愛知環状鉄道「新豊田駅」より北へ 徒歩15分

駐車場 約20台

■豊田市郷土資料館だより No.56■

平成18年6月8日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎(0565)32-6561 FAX(0565)34-0095

E-mail: rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL: http://www.toyota-rekihaku.com

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。